

年 度	番 号	部 門
1 4		育 成 保 護

“ 福井の森の研究から ”



TEL 0776 - 67 - 0002

敦賀地域植物環境調査のデータから

敦賀市で平成3年から稼動している石炭火力発電所のばい煙が、周辺の植物環境に与える影響を調べるため、昭和61年から敦賀地域の樹木活力度調査を実施している。それについて、現在までの樹木活力度の推移をみてみると、多少の変動はあるが、ほぼ健全な状態にあると判断できた。しかし、各調査対象木を単木的に検討してみたところ、中には衰退のみられる個体もあった。今回、それらについて、過去15年間の調査データを取りまとめたので報告する。

1. 調査方法

火力発電所周辺である、敦賀市、河野村、美浜町の22調査地点において、毎年樹木の活力が旺盛な8月下旬から9月にかけて、同一調査木の活力を、目視により評価した。その方法は、樹勢、樹形、枝の伸長、梢端の枯損、枝葉量、葉色、樹冠、枝の変色枯れの8項目を、4段階で評価し、合計値を8で除した数値を活力指数として比較した。

2. 過去15年間の調査データから

活力指数データを取りまとめた結果、全調査木が以下の3パターンに分けられた。

(1) 健全パターン(14調査地が該当)

健全パターンの主たる池河内の活力指数を図1に示す。ケヤキに虫害による周期的な衰退は見られるものの、調査期間を通じて、ほぼ健全であった。

(2) 衰退パターン(6調査地が該当)

衰退パターンを示す調査木の主な衰退原因は、水田の埋立、建物の建築、舗装等の、立地環境変化であると推測された。衰退パターンの主たる金ヶ崎宮の活力指数を図2に示す。当調査地は神社であり、年間を通して多くの参拝客が訪れる観光地で、特に本殿脇のスギ1が衰退傾向にあった。図2のケヤキの虫害による衰退は一時的なものであった。

(3) 回復パターン(2調査地が該当)

回復パターンの主たる常宮の活力指数を図3に示す。ここは、平成10年頃から衰退が見られるようになったが、これは、調査地横の河川でその頃からはなわれていた大規模な護岸工事が原因と推測され、工事終了後、活力指数は回復した。

3. まとめ

以上の結果により、過去15年間で調査木にみられた衰退には、石炭火力発電所のばい煙より、立地環境の変化が主たる原因であると推測された。

